

# Ingkaグループ 年次サマリー FY23



© Ingka Holding B.V. 2024.  
一部の画像は Inter IKEA Systems B.V. の提供によるものです。イケアの  
ロゴやイケアのトレードマークは、Inter IKEA Systems B.V. の登録商標です。

# Hej!

私たちを動かしているのは、「より快適な毎日を、より多くの方々に」というイケアのビジョンです。家での暮らしに情熱を注ぎ、イケアをよりよくするために、手ごろな価格と利用しやすさを追求し、環境と社会にポジティブな影響をもたらすようビジネスを変革しています。

世界が直面する多くの課題のいくつかを解決するために、自らの役割を果たしながら、イケアは今まで以上に優れた経験をお客さまにお届けしていくという野心的な目標を掲げています。

これを実現するために、イケアは、4つの大きなムーブメントに重点的に取り組んでいきます。その4つとは、より多くの人々が**より良い家**を持てるように支援すること、コワーカー、お客さま、コミュニティの**より良い暮らし**のために貢献すること、**より良い地球**をつくるために自らの役割を果たすこと、現在も未来の世代にとっても**より良い企業**になることです。私たちは、バランスの取れた意思決定を行い、この4つの分野すべてのパフォーマンスを総合的に評価できるよう尽力します。

イケアは80歳になりましたが、気持ちは若いままです。私たちは、創業者イングヴァル・カンブラードの「今日やったことをよりよくするために明日何をすべきか、と自分自身に問いかけていなければ、新たな一歩を踏み出すことはできない」という言葉に導かれ、自分自身に挑み続けます。

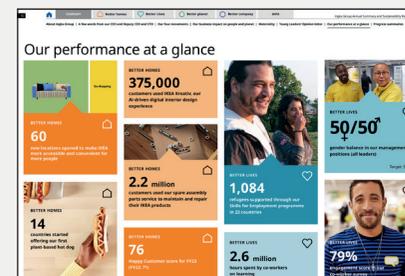
## さらに詳しいレポートはこちら

このレポートでは、幅広い目標や指標に対するイケアのファイナンス面での実績とファイナンス以外での実績について説明します。この目的は、成果を上げている分野や課題に直面している分野を重点的に取り上げつつ、イケアの実績に関して透明性のある説明を提供することにあります。Ingka グループのレポートには、次のようなものがあります。



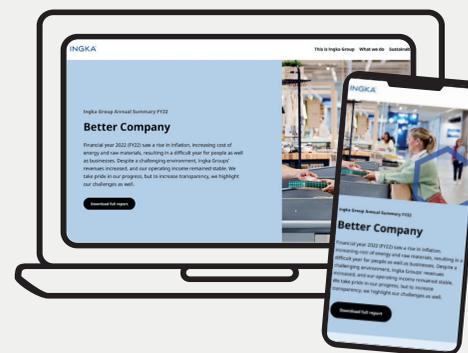
### Ingka グループ年次サマリー & サステナビリティレポート FY23

FY23 の業績を詳しくご説明します。(英語のみ)



### Ingka グループ年次サマリー & サステナビリティレポート FY23 の要約

FY23 の業績と課題の要点をまとめたものです。



### Ingka グループの レポートウェブサイト [Ingka.com/reporting](https://www.ingka.com/reporting)

FY23 の業績をまとめたオンラインサマリーです。(英語のみ)

# 目次

Ingka グループについて	04
リーダーからのメッセージ	05
4つのムーブメント	06
環境と社会へのビジネスの影響	07
重要性	08
若きリーダーたちの意見書	09
FY23 数字で見る Ingka グループ	10
より良い家&より良い暮らしの概要	12
より良い地球&より良い企業の概要	13



# 443億ユーロ

総売上高

# 165,353

コワーカーの数

# 32億

オンライン訪問者数

# 537

31カ国のカスタマーミーティング  
ポイント数

# 44

14カ国の Ingka Centres  
ミーティングプレイス数

Ingka グループについて  
詳しくはこちら

IKEA Retail について  
詳しくはこちら

Ingka Centres について  
詳しくはこちら

Ingka Investments について  
詳しくはこちら

## Ingkaグループについて

Ingka グループは、31 カ国 537 カ所のカスタマーミーティングポイントのほか、世界規模のイケアオンラインストアとデジタルソリューションを運営しています。この事業展開は、ミーティングプレイスのネットワークと、サステナブルな成長やビジネス変革を促進する積極的な投資部門によって強化されています。

イケアはフランチャイズビジネスを展開しており、イケアブランドのもとで運営している企業が多数あります。Inter IKEA Group B.V. がフランチャイズ本部であり、イケアコンセプトを継続的に開発し、新規および既存の市場で事業を展開し続けていく責任を負います。Ingka グループはイケア最大のフランチャイジーであり、IKEA RetailのFY23 総売上高の88%以上を占めます。Ingkaグループは、IKEA Retail、Ingka Centres、Ingka Investmentsの3つの事業で構成され、緊密に協力しながらビジネスに取り組んでいます。

### IKEA Retail

IKEA Retailは、手ごろでよりよい家での暮らしの実現を目的とした私たちの中核ビジネスです。都心型店舗を含むイケア店舗 399カ所と、さまざまな規模のプランニング&オーダーポイント138カ所を運営しています。IKEA Retail は、世界的なイケアフランチャイズ本部である Inter IKEA Systems B.V.とのフランチャイズ契約のもと運営しています。FY23 のイケア店舗の来店客数は6億9,700万人、オンライン訪問者数は32億人でした。

### Ingka Centres

Ingka Centres は、人々が集うミーティングプレイス体験をつくり出し、イケアへの来店を促します。また、ミーティングプレイスのコンセプトに沿って、リテール主導の目的地を世界規模で開発・運営します。Ingka Centresは50年にわたるショッピングセンターでの経験を誇るほか、14の市場の44のミーティングプレイスで3,000ブランドと連携。FY23の訪問者数は3億5,200万人でした。

### Ingka Investments

Ingka Investmentsは、投資と買収を通じ、Ingka グループの財務力を長期にわたって確保し、ビジネスの成長や変革、サステナビリティ目標を支援および促進しています。投資対象は、事業開発、優先順位の高い都市の不動産、ベンチャー&グロースキャピタル、再生可能エネルギー、サーキュラリティ(循環型)、森林、金融市場の7つです。

### イケア独特の所有構造

Ingkaグループ(Ingka Holding B.V. と関連会社) は、独立性と長期的アプローチを確保できる所有構造を築いています。Ingkaグループを所有するのはオランダの財団法人 Stichting INGKA Foundation (INGKA Foundation) です。INGKA Foundationには所有者がおらず、財団自体が所有しています。また、受益所有者もならず、財団の目的のためだけに資産を保有しています。つまり、財団の資産を取得する権利は誰も持っておらず、個人株主に配当金が支払われることもありません。

INGKA Foundationは、支援を必要としているより多くの人々に、より快適な毎日を提供するという慈善目的を掲げています。この目的を達成するため、INGKA Foundationは、独立した慈善助成金提供組織である Stichting IKEA Foundationに資金を提供しています。この組織は、貧困と気候変動という、子どもと家族の未来を脅かす2大要素に取り組んでいます。





『『よいビジネスとは、よいビジネスを目指すことである』。私たちは、これを共に実証している、前向きな社会起業家集団の一員であることに誇りを持っています。』

## リーダーからのメッセージ

FY23 にイケアは80周年を迎えました。80年の間に世界は大きく変化しましたが、イケアは変わらず「より快適な毎日を、より多くの方々に」というビジョンのもと活動しています。現在は、このビジョンがこれまでになく重要性と現実味を帯びています。

私たちは企業として、お客さまのニーズに寄り添い、手ごろさを保つこと、低価格を維持すること、未来に再投資すること、環境と社会を大切にすることで成功を収めてきました。どの要素も等しく重要であるため、業績の評価は4つの領域から総合的に行います。その4つの領域とは、「お客さまのためのより良い家」、「多くの人々とコワーカークのためのより良い暮らし」、「すべての命のためのより良い地球」、「現在そして未来の世代のためのより良い企業」です。私たちにとってよい業績とは、4つの領域のそれぞれにおいて、また、すべてにおいてよい成果を出すということです。

ここ数年はさまざまな意味で前例のないことが続きました。FY23 はそれに比べると波乱の少ない年ではありましたが、依然として先行きの見えない混沌とした経済情勢の中での事業運営となりました。それでも、私たちはコワーカークと力を合わせ、ビジネスを健全に成長させつつ、家と世界の暮らしをよりよくするというイケアのビジョンを実現できました。「よいビジネスとは、よいビジネスを目指すことである」。私たちは、これを共に実証している、前向きな社会起業家集団の一員であることに誇りを持っています。今年の注目すべきハイライトとしては、さまざまな形態のカスタマーミーティングポイントが新たに60拠点が開業し、より多くの人々にとってイケアが身近な存在に

なったこと、プラントベース食品の種類を増やしたこと、より多くのお客さまが中古のイケア家具を購入・販売できるようになったことなどが挙げられます。イケアは、コワーカークに働きがいのある職場を提供していると自負しています。84%のコワーカークが、職場でありのままの自分でいられると感じられていることを嬉しく思います。FY23 はファイナンス実績も堅調で、売上高は443億ユーロ、リテールの売上高は5.7%増加しました。純利益の85%は当社に再投資し、残りの15%はStichting INGKA Foundationに配当として支払い、慈善活動の目的を達成するために使われます。

総クライメートフットプリント（スコープ1、2、3）はFY16より24.3%減少しました。また、FY23は、現場以外での再生可能エネルギーの生成と広範なエネルギー移行に、さらに7億ユーロ（約束済みの投資額を含む）を投資しました（2009年以降、累計38億ユーロ）。このような成果を出すために、科学に基づく目標設定イニシアチブ（SBTi: Science Based Targets initiative）のネットゼロ基準に沿って気候目標を強化し、承認を受けるためSBTiに提出しました。強化後の目標は、2030年までにバリューチェーン全体のクライメートフットプリントを少なくとも50%削減するというものです。目標が承認され次第、FY24よりその成果を報告します。

私たちは、より手ごろで、利用しやすく、サステナブルなイケアを目指してビジネスを変革するとともに、レポートの強化にも取り組んでいます。成功や成果を発表するだけでなく、直面している課題についても明らかにし、極めて重要な諸問題に集中できるようにしたいと考えています。私たちは今年、目標を達成するために重要なステップをいくつか踏みしました。これはFY24以降も優先事項となります。

イケアは80歳になりましたが、気持ちは若いままです。私たちは、好奇心と謙虚さを持って未来を見据え、創業者イングヴァル・カンブラードの「今日やったことをよりよくするために明日何をすべきか、と自分自身に問いかけていなければ、新たな一歩を踏み出すことはできない」というメッセージにインスピレーションを受けて行動していきます。



ジェスパー・ブローディン、  
代表取締役兼 CEO、  
Ingka グループ\*



Juvencio Maetzky、  
Deputy CEO 兼 CFO、  
Ingka グループ\*



# あらゆる行動をより良い結果につなげる



より良い  
家

イケアは、何世代にもわたって、多くの人々のどんな予算にも見合う、魅力的で手ごろなホームファニッシングをお届けしてきました。私たちはオムニチャネルのイノベーションに重点を置き、リアルとデジタルのチャネルをシームレスに統合して、もっと多くの人々にイケアを体験してもらえるよう取り組んでいます。そして、より健康的でサステナブルな暮らしを簡単に実現できるよう、手ごろな商品、サービス、ソリューションを提供しています。



より良い  
暮らし

イケアの活動の中心にあるのは人々です。より公平で平等な社会をつくるために、イケアはリーダーとしての役割を果たしたいと考えています。私たちは、コワーカーやサプライチェーンを皮切りに、お客さまや近隣地域、コミュニティ、社会全体へと取り組みを広げて、世の中に役立つ力になろうと決意しています。



より良い  
地球

私たちみんなが共に暮らす家である地球はひとつしかありません。私たちはビジネス全体で大胆な措置を講じ、温室効果ガス排出量の削減、資源の使用量と廃棄物の最小限化、生物多様性と水の保護に取り組んでいます。また、お客さまにも行動を起こしやすいような取り組みを行っています。



より良い  
企業

私たちは、イケアのビジョンとイケアバリューを指針として、人を中心に据えたビジネスを展開しています。ガバナンスに優れ、バリューチェーン全体で人権を尊重した、公平かつインクルーシブで人々を力づける企業を目指してまい進します。また、純利益の大部分をビジネスに再投資し、より一層の手ごろな価格と利用しやすさ、ピープル・アンド・プラネット・ポジティブを実現します。純利益の残りは、Stichting INGKA Foundation に配当として支払い、慈善活動の目的を達成するために使われます。

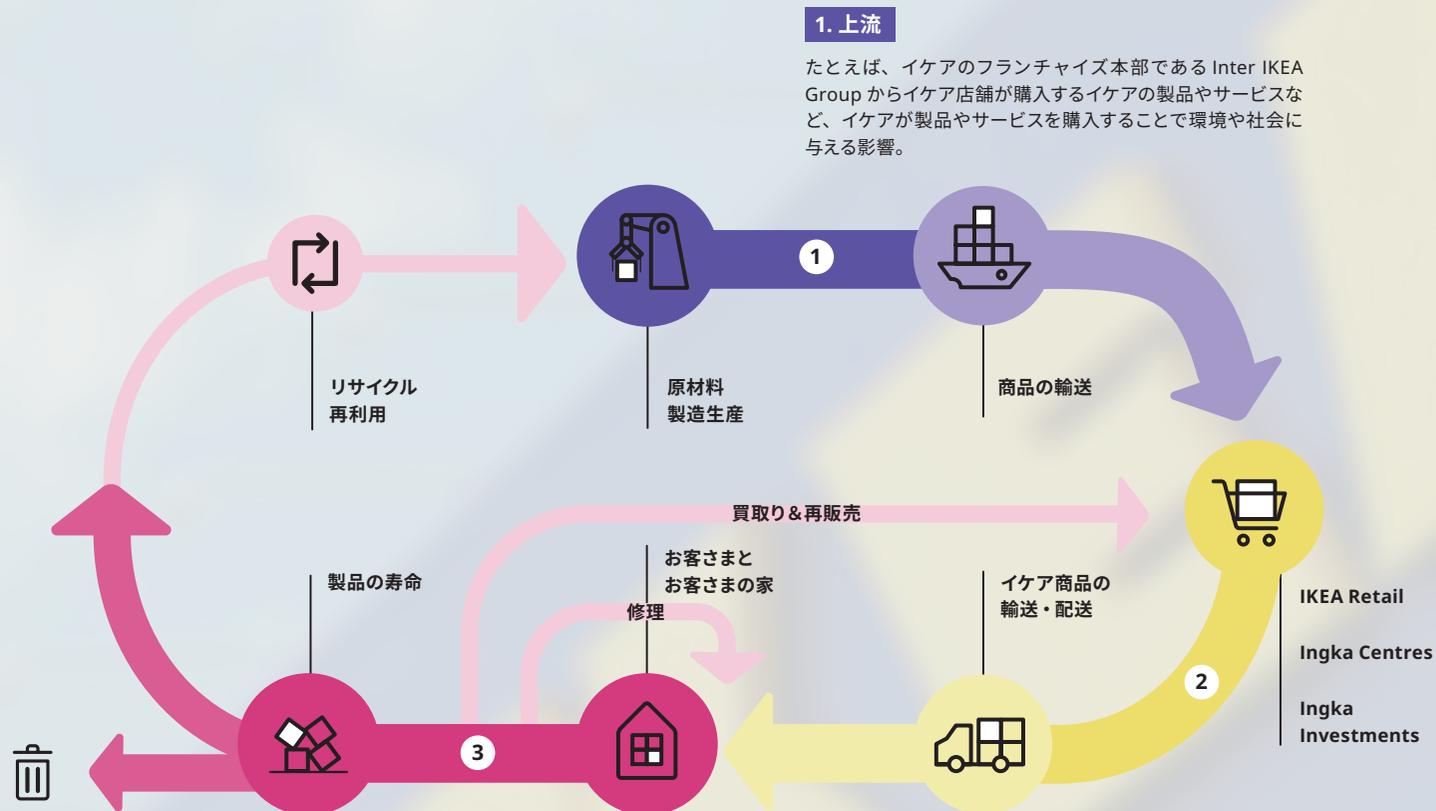
# イケアの バリューチェーン

イケアのバリューチェーンの各段階、つまり原材料の調達からお客さまによる商品の使用に至るまで、私たちのビジネスは環境と社会に影響を与えています。

Ingka グループでは、各段階の影響について理解と対処を促し、イケアのビジョンである「より快適な毎日を、より多くの方々に」を達成するため、バリューチェーンに取り組んでいます。

私たちはフットプリント全体に対し責任を負い、イケアの業務における影響はほぼ制御しています(図のセクション2)。原材料の調達や生産に関連する問題や機会にも、Inter IKEA Group やほかのパートナーと協力して対応しています(上流)。また、お客さまにインスピレーションを提供し、より健康的でサステナブルな家での暮らしを叶えるために、また、イケア商品の修理・再利用・リサイクルを通じて資源を節約するために、商品やサービスを提供しています(下流)。

次のページで、イケアのバリューチェーンで重要性の高いトピックについて確認してください。



### 3. 下流

お客さまがイケア商品を家へ持ち帰る際に生じる影響(お客さまが来店する際の交通手段を含む)。たとえば、イケアのキッチン設備機器で使われる電力や、中古のイケア商品の引取り、リサイクル、寿命などがこれに該当します。

### 2. イケアでのオペレーション

イケア店舗、Ingka Centres ミーティングプレイス、Ingka Investments を通じたイケアの業務から直接生じる影響(コワーカーの出張やラストマイル配送\*を含む)。

\* ラストマイル配送を外部委託する場合は、CO<sub>2</sub> 排出量はスコープ 3 下流レポートで報告します。

# もっとも重要なトピックについての報告

私たちは、イケアのステークホルダーやビジネス、そして地球にとってもっとも重要なトピックへの取り組みやその報告に注力したいと考えています。そのために、ステークホルダーからの意見と調査を組み込んだダブルマテリアリティ評価を定期的の実施しています。この評価の実施方法について詳しくは、[Ingka グループ年次サマリー&サステナビリティレポート](#)をご覧ください。

このページでは、ダブルマテリアリティ評価で特定された重要性の高いトピックが、レポートの基盤である「より良い」を追求する4つのムーブメントにどのように適合するかをご説明します。この表は、イケアのバリューチェーンの各段階で特定した重大な影響、リスク、機会をまとめたものです。

## 重要性の高いトピックとは？

端的に言うと、イケアのビジネスやステークホルダーにとってもっとも重大に関連性の高いトピックのことです。イケアの評価で考慮されるのは2点で、そのうちの1点は、「そのトピックに関連して、イケアのビジネスは社会や環境に影響を与える可能性はあるか」。もう1点は「そのトピックはイケアのビジネスの財務実績に影響を与える可能性があるか」です。いずれかに該当する可能性がある場合、それは重要性の高いトピックになります。

重要性の高いトピック	もっとも重大な影響、リスク、機会がある場所		
	上流	イケアでのオペレーション	下流
 <b>より良い家</b> 			
製品やサービスの手ごろさと利用しやすさ	●	●	●
健康的でサステナブルな暮らし	●	●	●
お客さまとエンドユーザーの安全性	●	●	●
 <b>より良い暮らし</b> 			
イクオリティ(平等性)、ダイバーシティ(多様性)、インクルージョン(多様性の受け入れ)		●	
健康、安全、ウェルビーイング		●	
能力開発		●	
公正な収入		●	
人権	●	●	●
コミュニティインパクト	●	●	●
 <b>より良い地球</b> 			
気候変動	●	●	●
資源の使用、サーキュラリティ(循環型)、廃棄	●	●	●
水	●	●	●
生物多様性と森林管理	●	●	●
 <b>より良い企業</b> 			
財務のしなやかさ	●	●	●
倫理的な業務運営	●	●	●
デジタルトラスト	●	●	●
責任ある調達	●	●	●

● 重大 ● 高 ● 中



# 若きリーダーたちの意見書



## 今後さらに進歩を進めたいと考える分野：

- 気候変動の緩和、特に再生可能エネルギーへの取り組みは称賛に値しますが、このほかにも、イケアとその関連企業の気候変動対策のステップアップにおいて、Ingka グループがリーダーシップを発揮する姿を見たいと思います。
- サプライチェーンにおいて人権は非常に重要です。サプライヤーの重大な人権違反を減らすため、Ingka グループが積極的な措置を講じることを期待します。
- 自然は、経済と私たちの存在そのものを支えています。生物多様性と森林管理に関する情報が FY23 よりも多く提供されることは喜ばしいことです。私たちは、Ingka グループがより具体的で科学に基づいた目標を設定し、取り組みを推進することを支持します。さらに、FSC 認証を超える取り組みとして、先住民や地域コミュニティと連携し、科学や権利に基づいた天然資源の消費や保護を実現することを Ingka グループに強く求めます。

私たちは、Ingka Young Leaders Forum の一部として、環境正義と気候正義に熱心に取り組む 30 歳未満の活動家や専門家で構成された独立した外部諮問グループです。世界的なムーブメントの促進、多国間方針の形成、草の根コミュニティの強化など、共同でさまざまな経験を積んでいます。これらはすべて、未来の世代のために住みやすい地球環境を確保することを目的としています。

## これまでの活動

この3年間、私たちは、コラボレーションと批判的な監視の間でバランスを取りながら Ingka グループと関わってきました。今年は、監査委員会との連携、グループマネジメントとの AI ポリシーや倫理観に関する深い議論、サステナビリティに関連するさまざまな取り組みへの迅速なフィードバック提供などを行ってきました。私たちの活動としては、サーキュラリティ(循環性)、透明性、サステナビリティの問題に挑んだりアドバイスを提供したりするほか、事業運営におけるより強力な多様性・公平性アプローチの提唱なども行っています。また、私たちの Transparency Working Group が Ingka グループのレポートを確認し、透明性と説明責任を確保する役目を負い、今年度のレポートの改善を促しています。

## 成果

破壊をもたらす地政学的な緊張や気候が関わる自然災害など、世界的な不安に直面する中、このような課題を解決するには社会のあらゆるセクターが協力し合う必要があると、私たちは認識しました。Ingka グループとのコラボレーションは、企業

と若い世代の有意義な連携モデルの先駆けとなっています。このパートナーシップは、よりインクルーシブなビジネス慣習の実現に向けた初期の一歩と言えるでしょう。これをきっかけに、Ingka グループやその他の企業と次世代リーダーとの関係が進化し続けることを願います。

**Zhilin Xiao, Cathy Yitong Li, Zanagee Artis, Vlad Kaim, Kehkashan Basu** Young Leaders Forum 代表



## 私たちは次の点について、称賛に値すると考えています。

- Ingka グループのレポートには「課題」セクションがはっきりと含まれており、透明性を保つという取り組みを実証しています。サステナビリティ目標の達成を目指す中で直面するハードルや限界について、このようにオープンに認めることは前進への一歩と言えます。
- Ingka グループによるダブルマテリアリティ評価の採用は、サステナビリティへの取組みの中で注目に値する一歩です。このアプローチは、業務やステークホルダーに関わる重要な環境的・社会的影響の特定に役立ち、説明責任と影響の評価を強化するというコミットメントを実証しています。
- Ingka グループは、化石燃料の段階的廃止などの気候変動対策を積極的に提唱し、手本となる行動でリードしているとともに、ほかの企業や政府に大胆な気候変動対策の実施を働きかけています。これは、The B Team とのコラボレーションからも明らかです。

# FY23 数字で見る Ingka グループ



より良い家



60

より多くの人々にイケアを便利にご利用いただくためにオープンしたイケアのカスタマーミーティングポイントの数



より良い家



14

イケアの新しいプラントベースホットドッグを発売した国の数

より良い家



375,000

AI を活用した新しいデジタルデザインツール、IKEA Kreativ を使用したお客さまの数



より良い家



220万

スペアパーツを利用して、購入したイケア商品のメンテナンスや修理を行ったお客さまの数

より良い家



76

FY23 のお客さま満足度スコア (FY22 は 71)



より良い暮らし



1,135

22 国で展開する「雇用のためのスキル」プログラムを通じてサポートした難民の数

より良い暮らし



260万

コワーカーが学習に費やした時間



より良い暮らし



50/50

管理職 (すべてのリーダー) における男女比

目標: 50/50



より良い暮らし



79%

コワーカーアンケートのエンゲージメントスコア

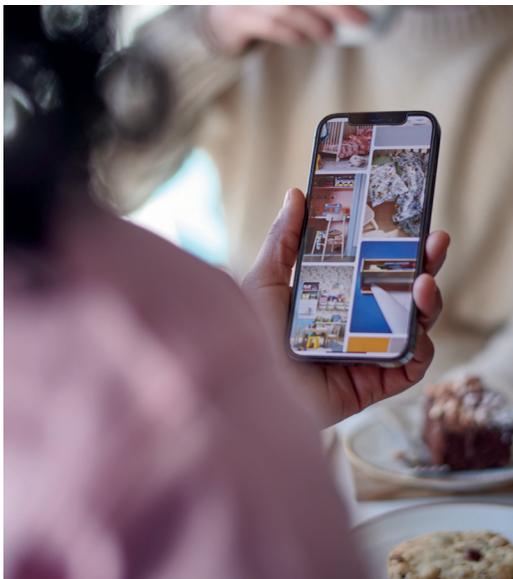
目標: 80%

より良い地球 

# 75.9%

事業廃棄物のリサイクル率

目標：2030 年までに 100%



より良い地球 

# 24.3%削減

ベースラインの FY16 と比較したクライアントフットプリント (スコープ 1、2、3) の削減率

より良い企業 

# 15億ユーロ

## 純利益

純利益の85%は自社に再投資し、残りの15%はStichting INGKA Foundationに配当として支払い、慈善活動の目的を達成するために使われます (FY22：3億ユーロ)

標準税率：28%

より良い地球 

現場以外での再生可能エネルギーへの投資額 (約束した投資を含む)

# 7億ユーロ

(2009 年以降、累計 38 億ユーロ)

目標：2030 年までに 75 億ユーロ (移行技術への 10 億ユーロを含む)



より良い企業 

# 443億ユーロ

Ingkaグループの収益 (FY22 は 420 億ユーロ)

より良い企業 

# 260,000超

データ保護とプライバシーに関するeラーニングセッションの修了数



より良い地球 

# 79.2%

再生可能な供給源からのエネルギーの使用率

目標：2025 年までに 100%



より良い企業 

# 12億ユーロ

合計税額 (FY22：10億ユーロ)

## 「より良い家」の概要

イケアは、80年間、家での暮らしを追求して培った知識を駆使し、家での暮らしをよりよくする製品、サービス、ソリューションを手ごろで利用しやすく、よりサステナブルな形でお客さまに提供します。

### 私たちの誇り

- 新たに3店舗、都市中心部に10店舗、プラン&オーダーポイントを47カ所のほか、新たな Ingka Centres ミーティングプレイス2カ所をオープンしました。また、店舗内とオンラインショッピングに革新的なテクノロジーを採用することで、より多くの人々がイケアをもっと利用しやすくなるよう図りました。
- 多くの市場が経済的苦境にある中で、イケアのリテール事業は売上を5.7%増加させました。
- イケアの Life at Home Report で、38カ国37,000人を対象にした調査から得た独自の洞察を発表しました。
- 211,600人以上のお客さまが Buyback Service を利用し (FY22:105,000人)、430,000点のアイテムに第二の人生を与えました (FY22:230,000点)。
- 新たにプラントベースホットドッグを発売し、イケアのプラントベース食品の価格をミートベースの代替品と同等もしくはさらに低く設定しました。

### 私たちが取り組んでいる課題

- FY23は、インフレ、通貨変動、経済的混乱といった困難な状況にありましたが、私たちは一部の商品の価格引き下げに投資しました。それでも、パンデミック前の価格レベルにはまだ至っていません。FY24はこの点を優先事項として、より多くの商品の価格を今年度中に引き下げつつあります。

## 「より良い暮らし」の概要

イケアの活動の中心にあるのは人々です。より公平で平等な社会をつくるために主導的な役割を果たし、私たちの会社と関わったり影響を受けたりする数百万の人々の暮らしを向上させたいと考えています。

### 私たちの誇り

- コワーカーやマネジメントチームのジェンダーバランス（男女平等）を保ち、Ingka グループの3企業で、取締役会メンバーの女性の割合が41.4%になりました。
- コワーカーの83%が年1回のアンケートに参加し、全体のエンゲージメントスコアが79%と非常に高い数値結果が出ました。
- 地域社会での社会的影響プログラムを通じて99,000人をサポートし、22カ国で難民1,135人が「雇用を得るためのスキル」トレーニングを修了しました。
- グループ全体を対象にした5回目の年次賃金ジェンダー平等評価から、パフォーマンスや、能力、国の法的要件では説明できない賃金格差があるコワーカーの割合がグループ内で減少していることがわかりました。

### 私たちが取り組んでいる課題

- 現場や管理部門のジェンダーバランスではよい進化が見られましたが、マネジメントボードと監査委員会ではジェンダーバランスがまだ達成されていません。リーダーシップやマネジメントのあらゆるレベルにおける民族、人種、国のダイバーシティ（多様性）の向上にも取り組んでいます。
- 全社規模で人権をベースラインとした評価を実施しました。その結果、イケアの事業や幅広いバリューチェーンでの人権擁護を目的とした重要なポリシーや手順は存在するものの、苦情処理の仕組みをバリューチェーンまで広げるなど、イケアのアプローチをさらに強化する必要があることがわかりました。

## 「より良い地球」の概要

私たちみんなが共に暮らす家である地球はひとつしかありません。気候変動や、生物多様性の損失、水不足などの世界的な環境問題に取り組む中で、私たちは自らの役割を果たそうと尽力しています。それも、今すぐ行動しなければなりません。

### 私たちの誇り

- イケアの総クライメートフットプリント（スコープ1、2、3の排出量）はFY16より24.3%減少しています。イケアの事業全体では、スコープ1と2の排出量がFY16より53.2%減少しました。
- 私たちは、再生可能エネルギーへの投資を通じ、イケアの事業の内外でネットゼロへの移行を加速させる支援を行っています。Ingka Investmentsは、現場以外の再生可能エネルギーと移行テクノロジーに対して75億ユーロの投資を約束しています。
- 資源の使用量を最小限に抑え、廃棄を防止するため、マットレスのリサイクル会社に投資しているほか、FY23は、イケアのソファとマットレスの製造にレポリオール（リサイクル素材）を使用することで循環させる試験をInter IKEA Groupとともに実施しました。
- 科学に基づく目標設定イニシアチブ（SBTi: Science Based Targets initiative）の企業向けネットゼロ基準に沿って、気候目標を強化しました。

### 私たちが取り組んでいる課題

- 温室効果ガスの削減目標には着実に近づいていますが、再生可能エネルギーでの加熱、冷却、輸送など、順調に進んでいない目標もあります。こうしたギャップを解消し、歩みを加速させるため、行動計画を作成しています。
- 水と生物多様性に関する指標や、目標、行動計画を作成するため、さらに尽力する必要があります。

## 「より良い企業」の概要

イケアでは財務のレジリエンス（耐性）を確保できるようにビジネスを構築しており、利益の再投資により成長と改善を続けられるようにしています。私たちは正直かつ誠実にビジネスを行い、高い倫理基準を満たしています。Ingkaグループが目的を掲げ、成功をもたらし、経営のしっかりした会社でいられるよう、ガバナンスを設計しています。

### 私たちの誇り

- 収益が5.4%増加し、純利益は15億ユーロに達しました。このうち85%は、イケアをより手ごろで、利用しやすく、サステナブルな存在にするため、自社に再投資しました。残りの15%は、IKEA Foundationの慈善活動を支えるため、Stichting Ingka Foundationへ配当として支払いました。
- 支払った税金と関税は、合計でおよそ12億ユーロにのびりました（FY22:10億ユーロ）。\*
- Ingka Investmentsは、不動産、再生可能エネルギー、森林、事業開発などの資産に13億ユーロの投資を行い、19億ユーロの投資を約束しました。
- AI使用への責任あるアプローチをサポートするため、デジタル倫理ポリシーを更新し、Ingkaグループ全体に展開しました。

\* 標準税率：28%

### 私たちが取り組んでいる課題

- イケアのサプライヤーが厳しい社会基準や環境基準を満たせるように、IWAY（サプライヤー向け行動規範）の導入をサポートし、コンプライアンスを維持できるよう取り組んでいます。IWAYの導入は進んでいるものの、今年にはコンプライアンス違反が多く確認されました。サプライヤーがコンプライアンス違反に対処できるよう対応策を講じています。
- テクノロジーは大きなチャンスをもたらしますが、ビジネスやステークホルダーにとっては新たなリスクにもなります。私たちは独自のデジタル倫理ポリシーを展開し、データ保護とセキュリティ・コントロールのトレーニングを同時に実施して、ビジネス、コワーカー、お客さまの安全を確保しています。



© Ingka Holding BV, 2023.  
一部の画像は Inter IKEA Systems B.V. の提供によるものです。イケアの  
ロゴイケアのトレードマークは、Inter IKEA Systems B.V. の登録商標です。  
一部の画像は、Shutterstock.com、Pexels.com、Gettyimages.com の  
ライセンスに基づいて使用しています。

本書は、「Ingka グループ年次サマリー FY23」のサマリーです。

[📄 レポートの全文 \(英語版\) をダウンロード](#)

INGKA™